



＼検索はコチラ／

泊高校の閉校に伴い制作した動画

「泊高校の今を残す」を

YouTubeで公開します！



富山県 朝日町



令和3年度で泊高校は閉校となる。

「何か形に残るものをつくりたい——」、そんな企画が立ち上がる。

朝日町では、町唯一の中学、高校である朝日中学校と泊高校で「中高連携推進事業」を平成11年にスタートした。中高6年間を通じた教育活動を推進するもので、教員の指導、部活動、ボランティア活動などの交流を通して生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす。また、生徒たちに夢や希望を抱いて欲しいとの思いから、著名人による講演会も行ってきた。泊高校の最後の姿を残すために何ができるのか？わたしたちが考え抜いた末に出した結論は、2本のショートムービーの制作だった。主人公の心の機微を繊細に描き、全国の映画ファンの心を鷲掴みにした坂本欣弘映画監督が、このショートムービーの監督、さらには講演会の講師を引き受けてくれたのだ。

坂本監督は大学までバスケットボールに打ち込み、国体の選手として活躍したのち、映画の道を志した。夢を追い、映画に心を救われ、映画監督となったその姿はまるで映画そのものである。さらに現役の泊高校生の出演協力が決まり、朝日町出身の女優、大平有沙がキャストイングされる。現役泊高校生のフレッシュさとプロの女優の掛け合いが、このショートムービーのすばらしさを一層引き立てたことは間違いない。

令和3年11月25日、坂本監督による教育講演会についてお披露目となったこの2本のショートムービーを、ぜひ多くの人に観ていただきたい。

——あの頃のまま何も変わっていない景色がここにある。

泊高校の姿が、永遠となってあなたの心に残りますように。

映画監督 坂本 欣弘

さかもと よしひろ

■プロフィール 1986年生まれ 富山市出身

◇経歴

大学在学中には、映画監督の岩井俊二が主宰するplay worksにシナリオの審査員として参加。その後、富樫森や呉美保らのもとで助監督として活動。11年より映像制作会社を立ち上げ、富山と東京を拠点にCM、PV、VP、テレビ番組などの制作を行う。

デビュー作「真白の恋」(17)で、主人公・真白のつたない恋心の機微を自身の出身地・富山県の美しい風景と共に丹念に映し出し、第32回高崎映画祭 新進監督グランプリ、なら国際映画祭や福井映画祭で観客賞を受賞など、国内映画祭、映画ファンの心を鷲掴みにした。続作「もみの家」(20)もまた、富山県でのオールロケを敢行し実際に1年をかけて撮影、少女の心の成長を描く物語を作り上げた。



私の未来はここにあった篇 —「私の夢はここから始まったんだ」—

大平有沙が主演を務める「私の未来はここにあった」篇。
高校を卒業し、観光ガイドとして働く山本リコのもとに通のハガキが届く。再編統合による母校の閉校——、その事実を知ったリコは、泊高校へと赴く。懐かしい教師との再会、思い出の詰まった教室。
女優・大平有沙が、情緒豊かに母校へ想いを馳せる高校生を演じる。

主演 おおひら ありさ 大平 有沙

■プロフィール
1995年生まれ
富山県下新川郡朝日町出身
現在、広告・ドラマを中心とした女優業の他、モデルとしても活躍している。



未来に残す今を発信篇 —「来年校舎を見に行こうよ、約束だよ」—

現役泊高校生3名が主演を務める「未来に残す今を発信」篇。
県内高校の再編統合により、泊高校の閉校が決まる。
教室一つ一つをたずね歩きながら、高校生はこれまでの思い出を振り返る。
友人との何気ない会話、日常だったクラスの光景、当たり前で過ごしていた高校生活——。
現役泊高校生が、閉校直前の「今」を生きるリアルな感情を表現する。

主演 泊高校生

